

一人も失われないうために

(マタイ18・15〜20)

一、問題が起きた時

きよの聖書箇所は、主イエスが「教会」について語られた数少ない箇所です。15節を見てまいります。(また、もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです。) 兄弟が犯した罪とは何なのでしょうか。ここで前提とされている場所は「教会」です。したがって、

「兄弟」は「教会員」を指しています。

教会員、すなわち主イエス・キリストを信じて、洗礼を受けた教会員が犯す罪とは何でしょうか。それは、教会員の悪口を言っているとか、人を赦さないとか、その手のレベルではなく、法的には問題にならないとしても、クリスチャンがそんなことをしているのかという場合です。あるいは、法的にも問題になるようなことをした場合です。それが分かった時に、私たちは衝撃を受けるであります。大切なのは、もし教会員が罪を犯したならどうしたらよいかということ。主イエスは、(行って、ふたりだけのところで責めなさい)と語られました。

二、兄弟を責める理由

なぜ、罪を犯した兄弟を、すなわち教会員を責める必要があるのでしょうか。

理由は、その兄弟(教会員)が「滅びないため」です。ここで語られている言葉は、前の節とつながっています。14節で、主イエスはおっしゃいました。(このように、この小さい者たちのひとりか父のみこころではありません。)(滅びる)とは「失われる」の意味です。神の前に「滅びる」「失われる」の意味です。ルカの福音書19章10節に(人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。)(とありますが、(失われた)と「滅びる」は同じ言葉です。

兄弟(教会員)を責める理由は、さらに大きな罪を犯さないためです。「さらに大きな罪」とは何でしょうか。主イエス・キリストによってもたらされた罪の赦しを受け入れない罪です。おおよそ、この世において犯した罪は、神を信じない罪に比べたら小さなものです——もちろん、生涯をかけて償いをしなければなりません。これが、主イエスが解き明かされた福音です。主イエス・キリストは、私たち一人ひとりが受けなければならぬ義なる神からの裁きを受けてくださり、「子よ。あなたの罪は赦された」(マルコ2・5)と語っておられます。この、神の語りかけを受け入れないことが最も大きな罪です。そうならないために兄弟(教会員)を責

めるわけ。そして、兄弟(教会員)が回心に導かれたら、(あなたは兄弟を得た)ことになり。それでも、兄弟(教会員)が聞き入れないなら、どうしたらよいのでしょうか。16節です。(もし聞き入れないなら、ほかにひとりかふたりをいっしょに連れて行きなさい。ふたりか三人の証人の口によって、すべての事実が確認されるためです。)(と。

それでも聞き入れないなら、どうしたらよいのでしょうか。17節です。(それでもなお、言うことを聞き入れようとしないなら、教会に告げなさい。教会の言うことさえも聞こうとしないなら、彼を異邦人が取税人のように扱いなさい。)(と。この場合の「教会」とは、今日の教会においては「責任役員会」、ないしは「長老会」に当たります。なお、(教会の言うことさえも聞こうとしないなら、彼を異邦人が取税人のように扱いなさい)は「排斥しなさい」の意味ではなく、「教会外の人のように扱いなさい。接しなさい」の意味で受け取られたらよろしいかと思。と言います。主イエスは(ルカ5・32)わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招いて、悔い改めさせるために来たのです。)(とおっしゃったから。

三、私たちの責任は大きい
18節をご覧ください。主イエスは語

られました。(まことに、あなたがたに告げます。何でもあなたがたが地上でつなぐなら、それは天においてもつなぐれており、あなたがたが地上で解くなら、それは天においても解かれていきます。)(と。(あなたがた)とは、すなわち「教会」です。「つなぐ」とは「禁ずる」ことです。「解く」とは「許す」ことです。ユダヤ人の表現法です。教会が「つなぐ」こと、すなわち「禁ずる」ことは、神も禁じ、教会が「解く」こと、すなわち「許す」ことは、神も許されるのです。私たちの責任は重大です。

一人の兄弟、すなわち教会員が小さな罪を犯した後——神の目から見ると、この世にあって犯した罪は小さいものです——、神に背を向けるという大きな罪を犯さないために、「兄弟を主イエスの許に引き戻しなさい」という流れの中で、19節が語られています。この聖句の元の意味は、(回心(＝方向転換)の祈りであることが分かります。なぜなら、そこに主がおられるからです。それが、20節です。

私たちが神の前に失われてしま、すなわち滅んでしまうのは、創造主なる神の御思いではありません。「死んだら無になるからかまわないではないか」と思われるかもしれませんが、人は死んで無になるのではなく、人は善人も悪人も復活し、正しい判決がなされると、聖書は知らせています。